

小学校 道徳 実践事例②

主題名 こまっているともだちに（第1学年B－友情、信頼）

教材名 「くりのみ」（Gakken みんなのどうとく1）

◆本実践の概要

この学習は、多面的・多角的な考えに触れて、互いに助け合おうとする道徳的心情を育てることを目標に実践を行った。

導入においては、学習する価値項目に関する質問をすることによって児童の実態把握を行った。展開では、児童が自分事として捉えるために、きつねとうさぎの行動のどちらに似ているかに対する自分の考えを学習支援ソフトに入力し、学級全員の考えを広げる時間を設定した。

友達同士で共有する場面では、児童が自分の考えの理由について話し合い、他者の考えと比べたり、深めたりする時間を設定した。中心発問では、きつねが涙を流した場面について問い、児童が互いに助け合うことの大切さについて気付くことができるように教師がファシリテートしながら全体で考える時間を取り入れた。

1 ねらい

きつねとうさぎとのやり取りについて考えることを通して、自分のことばかりではなく、相手のことを考えて行動することの大切さに気付き、友達と仲良く、助け合おうとする心情を育てる。

2 教材について

冬の季節で食べ物がなく、きつねとうさぎは食べ物を探しに行った。どんぐりを見つけたにも関わらず、それを一人でおなかいっぱい食べたり、落ち葉で隠したり、何も見付からないとうそをついたりするきつねと、二つしかない「くりのみ」のうちの一つをきつねに渡すうさぎの姿が対比的に描かれている教材である。

本教材を通して、自分の事しか考えていないきつねと、困っている友達を助けようとするうさぎの姿から、友達とどのような関係を築いていくことが大切であるのかについて考えさせたい。

3 児童の実態

本学級の児童は、友達と分け隔て無く関わることができる。困っている友達を見かけると、ほとんどの児童がすぐに手助けをする姿をよく見かける。一方で、自分の清掃場所の活動が終われば、他の児童がまだ掃除をしても遊んでしまったり、友達の発言を遮って自分の発言を優先したりするなど、自己中心的な言動も時折見られる。

そこで、本授業では、児童がうさぎときつねのそれぞれの立場に立ち、友情には何が大切であるのかについての対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりしながら互いに助け合うことの大切さに気付き、友達と仲良くすることのよさを味わえるようにしたい。

4 本時の実際

過程	学習活動と(○◎)主な発問	児童生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1. 内容項目について考える。 ○あなたは、困ったときに友達に手伝ってもらったことがありますか。	・ある。 ・ない。	・手伝ってもらったときの気持ちを想起させ、展開につなげる。

	<p>○その時、どのような気持ちになりましたか。</p> <p>2. 本時の学習のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい気持ちになった。 ・安心した。 ・ほっとした。 	
<p>こまっている ともだちが いたら、どうしたらよいかを かんがえよう。</p>			
<p>展開 35分</p>	<p>3. 教材を読む。</p> <p>4. 内容をつかむ。</p> <p>きつねとうさぎとのやり取りについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の季節 → 寒い。 ・外で活動することが難しい。 ・食べ物が少ない。 ・二人の状態 → おなかがすいている。 ・二人の行動 → 食べ物を探しに行く。 <p>5. 自分事に置き換える。</p> <p>○あなたの考えは、きつねとうさぎのどちらの考えに似ていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ソフトで自分の考えを色で表す。(きつねの場合は青、うさぎの場合は赤とする。) <p>・理由を共有する。</p>	 <p>【きつね】</p> <p>→ おなかいっぱい、どんぐりを食べる。どんぐりを隠す。たくさんのどんぐりを見つけたが、うさぎにあげない。</p> <p>【うさぎ】</p> <p>→ くりのみを二つ見付ける。きつねに一つあげる。</p>   <p>【きつね】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりをあげたら、減ってしまう。 ・やっとみつけたどんぐりだから人に分けたくない。 <p>【うさぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きつねがおなかを空かせていて、かわいそうだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型提示装置に冬の季節の写真を示し、食べ物が採りにくい状況をイメージさせる。 ・きつねとうさぎの考えの違いに気付かせる。 ・きつねの行動が悪いという流れにならないようにする。 ・1人1台端末を用いて自分の考えを色で表す。 ・自分の考えを視覚化させる。 ・自分と考えが同じ友達、違う友達の考えと理由を共有する。 ・自分の考えをより深められるようにする。 ・友達の考えと理由を共有している際に、途中で、自分の考えを変えてもよいとする。変える時には、理由を言えるようにする。 ・きつねとうさぎの気持ちの違いをつかませる。

	<p>◎きつねの涙には、どんな思いが込められているでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の友達と考えを共有する。 ・教師がファシリテートしながら、全体で共有する。 	<p>【うさぎに対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」という気持ち。 ・やさしいと思う気持ち。 <p>【自分(きつね)に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことしか考えることができなかった。 ・うさぎに残ったどんぐりをあげればよかった。 ・助けることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの行動からきつねが友達を助ける大切さに気付いたことを押さえる。 ・うさぎがきつねにどんぐりを分けた行動ときつねが涙を流した行動は、友達、友情を大切にしていることをつかませる。
<p>終末5分</p>	<p>6. 学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎの気持ちがとても優しいなと思いました。私もうさぎさんのようになりたいです。 ・きつねさんが自分の間違いに気付いて、嬉しかったです。 ・友達のことを考えたいです。 ・きつねさんもうさぎさんも優しいと思いました。 ・今日の学習で、困っている友達を見かけたら、助けようと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてに対してどんなことを感じたか、考えたかを発言させる。

5 評価の視点

- ・他者の意見に触れて、友達と協力したり、よりよい関係を築いたりするためにはどうすればよいかについて多面的・多角的に考えることができていたか。(発言・話し合いの様子)
- ・自分だったら登場人物のどちらに近いかを考えることで友達との向き合い方について自分事として考えを深めている。(記述・話し合いの様子)

6 評価の実際

教材の範読直後には、きつねはよくないと考える意見が多く見られたが、きつねとうさぎのやり取りの背景にある状況を確認したことで、うさぎはよくて、きつねはよくないと単純に考えるのではなく、どのような思いをもちながら他者と関わるのが大切なのかということに焦点を当てて話し合いをしている姿が見られた。

児童の話合いで出てきた意見や感想	
<ul style="list-style-type: none"> ・きつねの気持ちに近いと考えた理由は、自分がきつねだったら、独り占めしないで、たくさん持っているくりの実を分けてあげればよいと思ったから。 ・きつねさんの行動は、自分のいのちを守るためだったんじゃないかと思った。 ・きつねさんはどんぐりをもらって嬉しい気持ちだけでなく、どんぐりをあげればよかったと思って涙を流しているんじゃないかな。 ・きつねさんは、優しく行動すればよかった。 ・友達が困っていたらどうやって助けようかという勉強になった。 ・ずるをしてしまうのはよくないなと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いを通して、友達を騙したりしたり、嘘をついたりすることはよくないということについて考えを深めることができていた。 ・行動面だけに注目している児童もいたため全体共有の中で、行動の奥にある思いについて考える時間を設定することが必要であった。 ・教材の登場人物に自分を重ねながら自分の本音で意見交換をする児童の姿が見られた。

7 実践を振り返って

(成果)

- ・アンケートの活用によって、教材の内容と自分たちの生活を結び付けることができ、**児童に問題意識をもたせる**ことができた。
- ・自分事として考えるための発問をすることで、児童は登場人物になりきって気持ちや行動を考え、子供主体の授業を仕組むことができた。
- ・ICT を用いて自分の考えを提示することで、可視化することができ、**児童が友達と意見を共有する手立て**になった。そして、友達同士で共有する場では、**児童が自分の考えと他者の考えを比べたり、深めたりすることができていた**。よって、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにつながることができたと感じる。
- ・児童が友達と意見を共有することで、始めの考えとの変容が見られた。また、途中で考えが変わった児童に全体の場で理由を聞くことで、学びを振り返ったり多面的・多角的に考えたりする機会を設けることができた。
- ・児童が「きつねの涙」は、「うれしい涙」と「かなしい涙」であると気づき、全体で共有したことによって、きつねが涙を流した理由を項目ごとに分けることができ、多面的・多角的にきつねの涙に含まれている道徳的価値について考えることができた。

(課題)

- ・「あなたの考えは、きつねとうさぎのどちらの考えに似ていますか。」の問いに対して、児童は学習支援ソフトで自分の考えを色で表したが、青と赤の二つに分けるのではなく、児童の「どちらの気持ちも分かる」という考えが生かされるように限定せずに色分けを行うことで、多面的・多角的な視点を大切にしながら話合いを行うことができたのではないかと考える。
- ・「きつねの涙には、どんな思いが込められているでしょうか。」という問いで、児童がうさぎに対して「どうして、どんぐりの実をくれたんだろう。」と答えたが、全体でその理由を考える時間を設けていれば、本時で扱う価値項目に迫り、考えを深めることができたのではないかと考える。
- ・終末で、友達とどのような関係を築いていくことが大切であるのかという発問を設定するなどして、本時の学習内容を振り返り、自分の考えを深めて、本時で求められている価値項目に迫ることができたのではないかと感じる。

※子供主体の授業づくりの工夫点

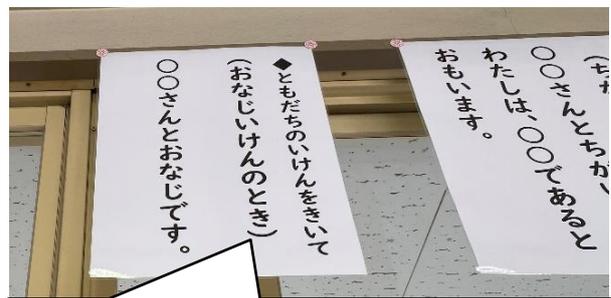
ねらいを達成することを第一に考えた上で、小学校1年生という発達段階を踏まえて子供主体を意識した授業作りを行った。

○工夫点

- ・ 道徳的価値の理解、教材の内容確認については教師主導で行い、話し合い活動については**子供に委ねる時間を保障**し、メリハリのある指導過程を設定した。
- ・ **ICT活用のルール作り**や**目的や視点を持った話し合いの習慣化**など、児童の今後を考えた環境作りを行っている。
- ・ 本授業では、学習支援ソフトを活用し、きつねとうさぎのどちらの考えと似ているか色分けして提示することで、**同じ考えの児童や違う考えの児童を選択して話し合える**ようにした。また、色分けのみにとどめ、理由については口頭で伝え合うことで、対話を通じた考えの広がりや深まりを生み出せるように工夫した。



一斉に可視化することが可能となる。
自分の考えと違う考えがあることに気付く。



話し合いのルール作り。
目的や視点をもった話し合いができる環境作り。

